

館山に韓国視察団

地域資源と観光振興探る

大巖院「四面石塔」など見学

日本の観光振興を探るため来日した韓国の政府系視察団が、館山市で地域資源を生かしたまちづくりの在り方を視察した。一行は、韓国とゆかりのある大巖院(同市大網)を見学したり、明治の洋画家、青木繁が滞在し代表作「海の幸」を描いた小谷家(同市布良)や布良崎神社を訪ね、漁村の祭り文化に注目していた。



「海の幸」を生んだ小谷家前で記念撮影する視察団
=館山市布良

来日したのは韓国文化体育観光部や同部研究機関、韓国文化観光研究院の職員や研究者ら約30人。館山が視察の対象となつたのは、神奈川大学の助手

のチョン・イルジさん(32)が昨年、東京大学大学院の都市工学研究科在籍中にまとめた博士論文が韓国研究院の目に留まったためという。チョンさんは、館山市で戦跡や史跡を保存し、観光資源や平和教育に生かす活動をしているNPO安房文化遺産フォーラム(愛沢伸雄代表)に注目して、民間主導の生涯学習まちづくり「館山地域まるごと博物館」運動を論文に取り上げた。

大巖院には豊臣秀吉の朝鮮出兵で捕虜になった朝鮮人の供養塔「四面石塔」(県有形文化財)があり、「南無阿弥陀仏」とハンゲルで刻まれている。小谷家は青木繁が投宿した家で、「海の幸」は布良崎神社の祭礼からインスタレーションを得て描かれたとの説もある。

視察を終え、同研究院国際交流センター長のイ・ドホンさんは「四面石塔の平和を求める思いに感動した。広い交流が大切だ。館山の祭り文化は地元住民の手作りで個性的、印象的だ」と視察成果を語った。